

「ビッグデータ」という言葉が表すように、大量のデータを集められる時代になりました。ここで肝心なのはデータの中身です。まずは、どのような技術進歩によって、どんなデータを集められるようになったかを紹介しましょう。

一つ目は、通信技術の進化でモノがネットにつながったことです。例えば、自動車やネット接続して、地球測位システム(GPS) データを集めれば、車の位置や走行速度を把握できます。アクセルやブレーキのデータも併せれば、ドライバーが安全運転をしているかも分かります。

二つ目は、スマートフォンの普及で行動データ取得が容易になったことです。位置や移動だけでなく、商

「履歴」をデータ化する意義

品の購買やウェブ閲覧履歴、SNS(交流サイト)への書き込みなどのデータが取得できます。

三つ目は、センサーが小型化・低コスト化したことです。スマート端末は加速度など様々なセンサーを内蔵しています。機械や設備といったモノにも、温度やひずみなどを検知する様々なセンサーが導入されています。これらから、例えばヒトの運動量やモノの劣化状態が把握できます。

四つ目は、データの保存コストが低下したことです。個人の購買データや工場の製造データなどを、過去から現在まで全て保存できるようになりました。

ヒトやモノの様々な行動や状態をデータ化し、蓄えられるようになったわけ

です。しかも単なるデータの大規模化ではありません。個々のヒトやモノごとに時系列でデータを整理すれば履歴になります。ヒトやモノの行動や状態を記録した、履歴データを扱える時代になったのです。

現時点ではまだ粗々な履歴データですが、GPSは誤差が数センチという精度となり、5G(次世代通信規格)では多くのモノを同時接続できるようになります。IT(情報技術)の進化は履歴データの「分解能」を高めるのです。

皆さんは、このことに不気味さを感じるかもしれません。プライバシーについては十分に配慮しなければなりません。ヒトやモノの履歴データが充実するのは間違いなく、これは